

City of Sails ～オークランド旅行 2012

1、日程(8月23日～30日)

旅の目的は、イーデンパークでラグビー観戦。そして、ニュージーランドの玄関口でもある「帆の街」オークランドに親しむこと。



四国観光達人として、今回の旅をわかりやすく説明すれば、拠点であるオークランドを高松として、サンポートのシンボルタワー(スカイタワー)から街を一望し、総合運動公園のレグザムスタジアム(イーデンパーク)でプロ野球オールスター戦(ブレディスローカップ)を観戦、続いて鳴門・大塚スポーツパークのオロナミンC球場(ノースハーバー・スタジアム)で四国アイランドリーグ(ITMカップ)の試合を応援。屋島山上水族館(オークランド動物園)を観光し、サンポートから船に乗って、男木島(ランギト島)と直島(ティリティリマタンギ島)に渡る。夕食はウォーターフロントのサンポート周辺(バイアダクト)で、せとしるべ(ウインヤードクォーター)までお散歩などなど・・・って、わけわかりませんか？

今回の旅で一番活躍したのは、Wi-Fiルーター(先に日本でレンタル)とiPad(動画も撮れるすぐれもの)で、インターネットの力で情報収集。天気予報に地図にアクセス方法、料金、見どころ、口コミなどを独自調査。メカに弱いお代官様は、裏代官トラベラーの三歩後ろについて行くだけでした。



2、ウォーターフロント

今回特に注目したのが、フェリーターミナルから素敵なレストランが並ぶバイアダクト地区と、コンテナヤードを改修した憩いの場所ウインヤードクォーター。産業遺跡とも言えるセメントサイロをバックに最新の芸術作品や遊戯施設が並んで、付近をトラムで一周できて、フィッシュマーケットでは、新

鮮な魚を販売、シーフード主体の食事もできます。



世界的なヨットレースの主会場でもありますから、埠頭にヨット(デインギー)やクルージングボートが並んで停泊しています。船の事はよくわかりませんが、見ているだけで、爽やかに風を切って海に漕ぎ出すシーンが目につかびます。





クルージングボートを牽引するクルマが公道を走ったり、ハナテン中古車センターもびっくりの、クルージングボートの展示即売場の巨大倉庫の壁一面に船が並ぶなんていう想像を絶する光景を目にしたり。また、ここから眺める青い海、青い空、たなびく雲も素敵だし、スカイタワー方向の眺めも抜群です。



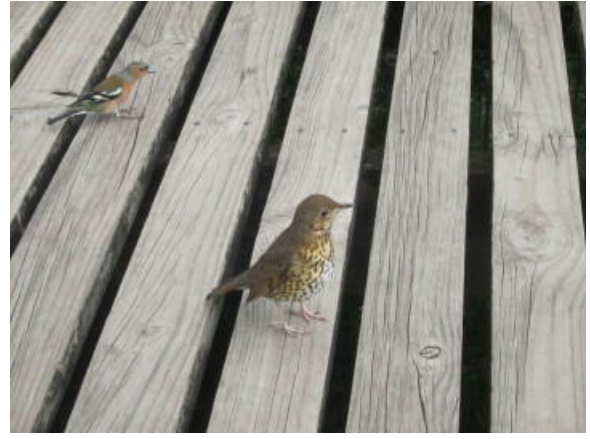
3、ランギト島

約600年前に火山爆発でできたハウラキ湾で一番新しい島で、どちらの方向から見てもなだらかな円錐形でお灸の形に見えます。



真黒な溶岩が島の周りを固めている姿は一見の価値あり。溶岩に苔むして、きのこ類がついて、それが枯れて土の元になり、昆虫や鳥が種を運んで、シダなどの植物が生えて緑化して現在に至るそうですが、島の港から1時間かけて頂上まで登れば、180度見渡せる最高の展望台に到達です。デッキに座って、風に吹かれて、海と陸のコラボレーション、隣のモツタプ島や市内中心のスカイタワー方向を眺めて、ランチボックスを広げれば王者の気分。野鳥も王者を祝福しにきてくれます。





なお、この島は無人島で売店ひとつありませんので、訪問の際は、ランチと飲み物を持参、途中で火山活動でできた洞窟がありますので、懐中電灯を持って探検してみましょう。また、15:30発の最終の船に間に合わなければ遭難(?)する事になりますぞ。



4、ティリティリマタンギ島

フェリーターミナル発9:00(水～日曜日)ガルフハーバー経由で1時間20分、鳥の楽園の島に到着です。ここでは、ボランティアガイドさんが英語と一緒に歩いて島に生息する鳥の話と植物について教えてくれますが、ニュージーランドの自然に興味があれば、ここだけは、通訳してくれる日本人ガイド同行で訪問できるツアーを選択すべきだと思います。





ティリティリマタンギとは、マオリ語で「風に吹き上げられる」という意味だそうです。船は揺れましたが、上陸すれば快適なお天気で「お日様ニッコニコ、豚さんホーホケキョ♪」って感じです。



この島は、かつて人が住みついて牧場にしていましたが、国を上げての環境保護という観点から、1984年から元々の植生の苗を植えて自然環境を復活させ、鳥の楽園として再生させた「サンクチュアリ」として知られています。島には、動植物の持ち込み厳禁、靴に着いた土もしっかり落として、バッグにネズミや昆虫が潜り込んでいないかチェックしなければなりません。



港に到着して船を降りれば、ニュージーランドの黄色い花「コーファイ」に群がるトウイが歓迎の歌を奏でてくれます。最初に注意事項を聞いて、ガイドさんと一緒に島の探索が始まります。トレジャーハンティングじゃないけど、ガイドボードに掲載されているサドルバック、ロビン、スティッチバード、ホワイトヘッド、ファンテイル、ベルバード、カカリキ、Nzピジョン、ライフルマン、カカコなどの鳥を探しま

す。



他に、何の変哲のない黒いカモでありながら、超レアもの発見のブラウンテール。飛べない鳥を代表して、大きいタカへに小さいプケコ。巣穴で卵を温めるブルーペンギンのお母さん。大きなカカを発見し、至る所でさえずって飛び回る首の下の二つのボンボリが素敵なトウイなどなど。また、宿泊すればキーウィバードに遭遇できるかも知れません。



波の音、風の声、鳥のさえずり。目を閉じて静かに耳を傾けてティリティリマタンギの大自然に抱かれれば、心身ともにリフレッシュできること間違えなし。お代官様イチオシの究極のスポットですから、だまされたと思って一度お試しあれ！！



なお、この島も15:30発の船に乗らなければ、海上タクシーをチャーターしなければならないとか。

今回は、初めて南半球一高い展望台のスカイタワーから市内を展望。スカイウォークとかスカイジ
ャンプなんていうクレージーな体験に身をゆだねる観光客も視界に入ります。宿泊も、このタワーの
入口があるスカイシティホテルで、広々とした部屋の広々としたベッドでゆっくりとくつろいで翌日
に備えました。

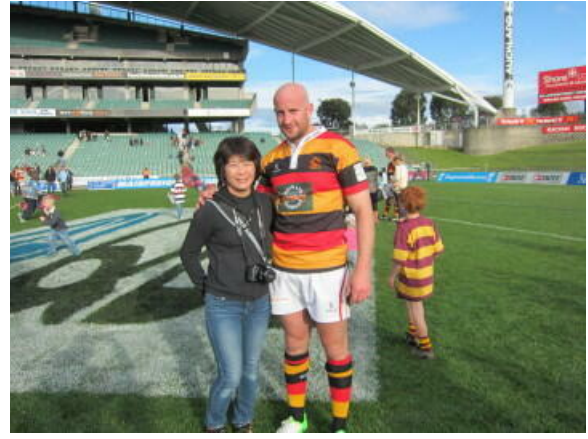




島を観光する前に、国内に生息する鳥類、爬虫類を調べるという意味でオークランド動物園を訪問。レッサーパンダやミーアキャットなんてどこにでもいる可愛い哺乳類を見て癒されて、横歩きする鳥・カカポと記念撮影、夜行性動物コーナーではガラス越しに動くキーウィバードを観賞。生きている化石と呼ばれる鎧を身にまとった大きなトカゲのテュアタラも展示しています。



夕食のメニューは、ニュージーランドの皿鉢料理のシーフードプラッターがお気に入り、特にナチュラルオイスター(生かき)と蒸したムール貝などをつつきながらキーンと冷やした白ワインを飲めば、「生きてて良かった〜！」と神様に感謝します。



そんな8日間。どっぷりとオークランドの魅力につかって来ました。
"God defend New Zealand !"

2012年9月2日記(旅は2012年8月23日～30日)

Top
[トップ](#)
[↑](#)

Back
[戻る](#)


[オークランド・ウォーキング](#)
[タ](#)